

中央発條株式会社

証券コード：5992

CHUHATSU
CHUO SPRING CO.,LTD.



CONNECT WITH THE NEXT.

「その技術で次なるステージへ」

第100期中間報告書

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日



技術と情熱が創り出す価値ある商品を未来へ世界へ



代表取締役社長 小出健太

もっと、もっとワクワクしたい明日の笑顔のために

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
当社第100期中間期（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

2022年11月

2022年度第2四半期連結累計期間の業績につきましては、国内においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う半導体等の部品の供給不足を主要因とした、主要なお客様の生産調整に伴う工場の操業停止等が発生し、自動車の生産台数が前年同四半期に比べ減少いたしました。一方海外では、アジア・中国の自動車生産台数が増加したため、グループ全体では前年とほぼ同レベルとなりました。

このような状況の中、売上高が前年同四半期に比べ51億2千3百万円増収（前年同四半期比13.4%増）の434億3百万円となりました。この売上高増収のほぼ全てが、鋼材・資材・物流費等の高騰に対するお客様への売価反映と為替変動の影響であり、実質的な売上高は前年とほぼ同水準となりました。

損益の状況につきましては、営業利益が3億4千1百万円（前年同四半期比66.5%増）、経常利益は20億4千3百万円（前年同四半期比228.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億9千9百万円（前年同四半期比467.2%増）となりました。鋼材・資材・物流費及び動力光熱費の高騰は前年同四半期の高騰の約3倍にも達し、大変厳しいインフレ圧力に晒されましたが、過去最高レベルを更新する合理化改善の実施、インフレ圧力の大部分を売価に反映できた営業努力によりコスト上昇を跳ね返し、営業増益を確保することができました。

当社はこれまで安定した収益確保、有利子負債の圧縮を基盤とした財務体質強化の施策を計画的に推進し、基本的に自己資金によるグローバル資金体制を構築してまいりました。その結果、当第2四半期末の為替レートが、前年度末に対し大きく円安方向に振れたことにより、自己資金分の評価換算差益が大きく営業外のプラス収益方向に寄与し（約13億円の増益効果）、今回の経常利益の増益につながりました。なお、売上高及び各利益実績は、全てにわたり本年7月28日に修正

公表した業績予想数値を上回っております。

今後の見通しにつきましては、通期の売上高及び営業利益を、10月27日に公表した数値へ修正致します。売上高は絶対額では増収修正となっておりますが、内容的には利益に寄与しない鋼材等の更なる高騰や為替変動に対する売価反映が、実質的な主要なお客様の生産台数減少予測に伴う売上高減少を上回ったものであり、営業利益に対してはマイナス要因として作用致します。それを受け、営業利益見通しを減益予想修正致しました。一方、期末の為替レートは円安方向に推移しているため、経常利益、当期利益においては、営業減益影響が円安による営業外収益上昇に打ち消され、公表数値は変更致しません。今年度後半は、インフレ圧力は前半期を更に上回る圧力となることが予測され、高付加価値製品の売上高増、営業努力最大化による製品売価への反映や、今年度前半期に実施した過去最高を超える合理化改善の継続により、10月27日に修正した公表利益を上回る利益獲得に向け今後も最大限の努力をはかります。

将来に向けては、今後も引き続き収益力を高める「製品の高付加価値化」、主要なお客様の電動化戦略に対応した「EV・FCV対応製品のラインナップ拡充」、自動車部品で培った技術を活かす「非自動車分野への挑戦」を積極的に推進し、売上高と収益力の双方を強化し「中発Global Vision2025」達成に注力してまいります。

またSDGs対応としてのカーボンニュートラル対応の強化、人的投資としての従業員モチベーション、働きやすさの追求を強化推進し、「社会」と「人」に優しい企業を目指します。

今後とも信頼され続ける『100年企業』を目指し、今後も邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

● 野球部 ―東日本軟式野球大会優勝―

2022年5月に北海道北見市にて開催された東日本軟式野球大会に当社野球部が愛知県代表として出場し、見事優勝いたしました。優勝を祝し、名古屋市長より10月16日（日）開催の名古屋まつりへパレード参加のご招待をいただき、名古屋市中心街を練り歩きました。

来年もいい結果を残せるよう、野球部一丸となって今後も厳しい練習に取り組んで参ります。



東日本軟式野球大会での集合写真



名古屋まつりでのパレードの様子

TOPICS

● 非自動車分野拡大 ―エッグリール新発売―

自動車分野で培ってきたケーブルの技術を応用し、本年11月に介護・医療分野で新製品「エッグリール」の発売を開始いたしました。

本製品は、点滴チューブをまとめて吊り下げられるものであり、その他にも様々なアイテムを任意の高さに保持できる吊り下げリールです。

およそペットボトル1本分（500ml）の重さを支えることができます。



エッグリール



使用例

TOPICS

● グローバル事業戦略

中国拠点の一つである、昆山中発六和機械有限公司が設立20周年を迎え、記念式典を開催いたしました。昆山中発は中発グループの中でも最大のライトケーブル生産拠点として成長を続けてまいりました。

またタイでは、新たにバンコク営業所を設立いたしました。タイでの更なる新製品・売上拡大に向け、お客様へより迅速な対応が取れるように体制強化して参ります。

今後も中発グループがOne Teamとなり、「中発Global Vision2025」達成に向け売上拡大を目指します。

役員新体制のお知らせ

2022年6月17日開催の第99回定時株主総会をもって、社長を小出とする新体制がスタートいたしました。

新体制の基本方針として、前社長の高江が7年間で築いた強固な収益基盤を継続・定着させ、より一層進化させていくことを掲げ、その上で「中発Global Vision2025」の達成に向け、製品の高付加価値化、主要顧客の電動化戦略に対応したEV/FCV対応製品の拡充、カーボンニュートラル施策等の社会的ニーズに応えたSDGs化、投資効率向上を目指した財務戦略を積極的に推進してまいります。



監査役
山本 秀樹

監査役
間瀬 実

代表取締役執行役員
米倉 浩司

監査役
中村 元志

代表取締役社長
小出 健太

監査役
近藤 禎人

取締役
安田 加奈

取締役執行役員
矢澤 文希

取締役
山本 光子

第99回定時株主総会のご報告

2022年6月17日に開催した株主総会の模様を、当社ウェブサイトでご紹介しています。

第99期の事業報告、当社の対処すべき課題についてなどを動画でご覧いただけます。

 <https://www.svpcloud.jp/systems/ir/company/chkk/2022061699th/>

ビジネス拡大への取り組み

当社の製品がトヨタ自動車の新型BEV「bZ4X」に採用



※写真提供 トヨタ自動車株式会社様

5月12日にリース発売されたトヨタ自動車株式会社の電気自動車(Battery Electric Vehicle : BEV)「bZ4X」に、当社のシャシばね、精密ばね、ケーブル製品が採用されました。

当社の主要製品であるシャシばねは、自動車の「走る」「曲がる」「止まる」を制御する部品のため、エネルギーソースが電動化に変化しても変わらず必要となります。

また当社の強みである精緻で繊細なばね製品の開発力を活かし、EV・FCV・自動運転対応製品の拡大へも注力してまいります。

当社の製品がトヨタ自動車の新型「クラウン」に採用

7月に世界初公開したトヨタ自動車株式会社の新型「クラウン」に当社のシャシばね、精密ばね、ケーブル製品が採用されました。

当社のばねが新型クラウンの操縦性と安定性、そして快適な乗り心地をサポートしています。

当社は今後も創る技術を社会に活かし、ばねの力で安全と快適な暮らしを支えてまいります。

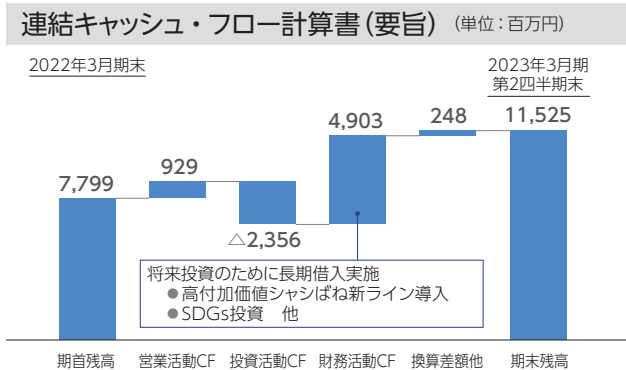
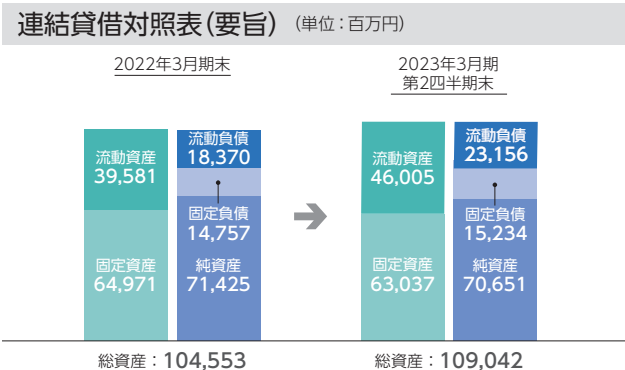
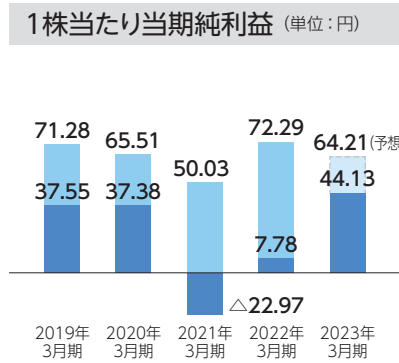
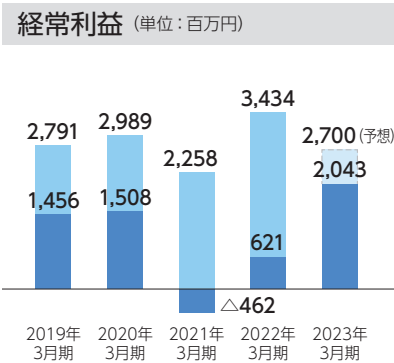
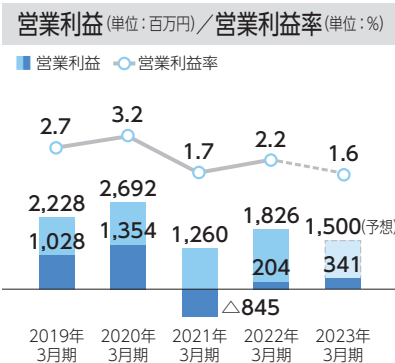
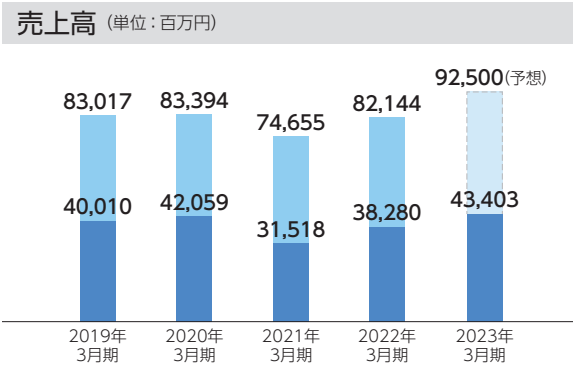


※写真提供 トヨタ自動車株式会社様

決算概要・連結業績ハイライト

(■第2四半期 ■通期) (為替レート(USD/JPY) 2022年3月期:122 2023年3月期:135 (予想))

連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)		
科目	2023年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
売上高	43,403	38,280
営業利益	341	204
経常利益	2,043	621
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,099	193



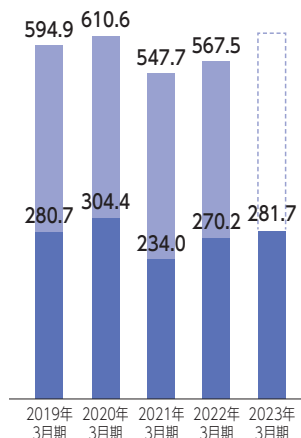
(注1) 2021年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(注2) 将来に関する業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想値であり、不確実性やリスクを含んでおります。実際の結果は様々な要因によって業績予想と異なる可能性があります。

地域別セグメント売上高 (単位: 億円)

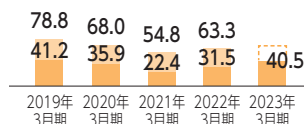
日本

■ 第2四半期 ■ 通期



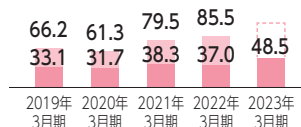
北米

■ 第2四半期 ■ 通期



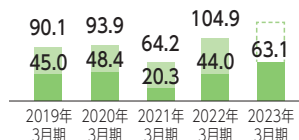
中国

■ 第2四半期 ■ 通期

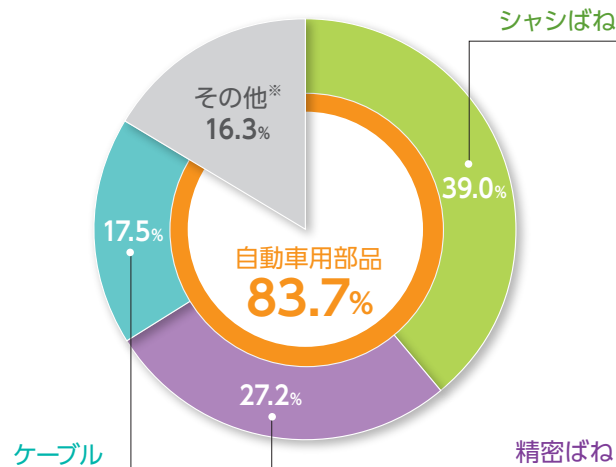


アジア

■ 第2四半期 ■ 通期

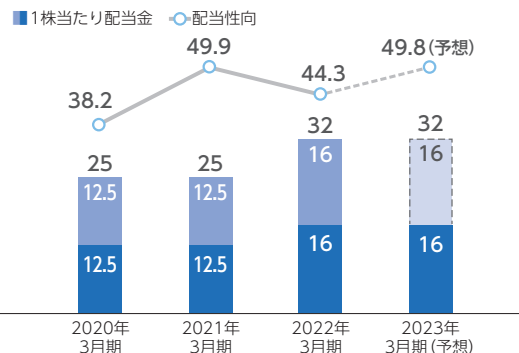


製品別売上構成



※その他には自動車部品・建築用部品他を含んでおります。

1株当たり配当金 (単位: 円) / 配当性向 (単位: %)



(注1) 2021年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり配当金」を算定しております。

(注2) 2023年3月期期末配当につきましては、現時点では1株当たり16円のままとさせていただきます。

会社概要

設立	1948年12月25日
資本金	108億3,720万円
従業員数	連結：4,344名 単独：1,501名
製品区分	自動車用部品(シャシばね、精密ばね、ケーブル)、 その他(自動車用品・建築用部品他)

株主メモ	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告方法	電子公告 ※決算公告に代えて、貸借対照表および 損益計算書は、金融商品取引法に基づ く有価証券報告書等の開示書類に関す る電子開示システム（EDINET）にて 開示しております。
株主名簿管理人 (連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
証券コード	5992
上場取引所	東京証券取引所、名古屋証券取引所

株式情報

株式の概況	
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	25,542,396株
株主数	7,028名

大株主		
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
トヨタ自動車株式会社	6,160	24.71
愛知製鋼株式会社	1,916	7.68
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,596	6.40
中発取引先持株会	1,325	5.31
株式会社三井住友銀行	699	2.80
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	642	2.57
株式会社三菱UFJ銀行	618	2.48
中発従業員持株会	521	2.09
東京海上日動火災保険株式会社	454	1.82
第一生命保険株式会社	342	1.37

(注1) 出資比率は、自己株式(623,882株)を控除して計算しております。
(注2) 2021年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っ
ております。

所有者別
株式分布状況

